

JAL の A350-900、運航開始

9月1日に日本航空（JAL）の A350-900 が羽田 - 福岡間で運航を開始しました。初便出発前に羽田空港で就航セレモニーが開催され、JAL の植木義晴代表取締役会長とエアバスのクリスチャン・シェラー最高営業責任者（CCO）らが出席しました。

JAL の植木会長はセレモニーで、「A350 は日本航空のこれからのフラッグシップを担ってまいります。座席や機内エンターテインメントなど、こだわり抜いたこの A350 で、これまで以上に快適な空の旅をお楽しみいただけることを、JAL 社員一同確信しております。ぜひ A350 での新しい日本の空の旅をご期待ください」と述べました。

エアバスのシェラー CCO は次のように述べました。「本日は日本航空とエアバスにとって歴史的な日です。効率性に優れ、環境に配慮した A350-900 の就航によって、日本の航空業界に新たな歴史のページが開かれます。最高の客室を実現するため日本航空は多大な努力を注がれてきました。その A350 がお客様に最高レベルの快適な空の旅を提供することを確認しています。日本航空が A350 に大きな期待を寄せていただいていることに心より感謝を申し上げます」

JAL の A350-900 の就航を記念して9月4日まで、



9月1日に羽田 - 福岡線で運航を開始した JAL の A350-900

JAL の A350 の座席を設置したエアバスの「Airspace」モックアップが羽田空港で展示され、訪れた多くの旅客の注目を集めました。

JAL は A350-900 を合計 13 機発注しています。

すでに特別塗装の 2 号機、3 号機を受領しており、順次、A350 の運航便数を拡大していきます。（4 ページに写真特集）



セレモニーでスピーチするクリスチャン・シェラー CCO

contents

JAL の A350-900、運航開始

最新航空機市場予測、
今後 20 年間で 39,000 機超の新造機需要

エアアジア X、A330neo を 12 機、
A321XLR を 30 機発注

クリスタル・キャビン・アワードを受賞

コムラックスが ACJ320neo を発注

JAL の A350 就航セレモニーの
ハイライト

フィジーエアウェイズの A350 XWB が
ロールアウト

最新航空機市場予測、今後 20 年間で 39,000 機超の新造機需要



最新の航空機市場予測を発表するエアバスのクリスチャン・シェラー CEO

エアバスは最新の航空機市場予測「グローバル・マーケット・フォーカスト 2019-2038」を発表しました。今後 20 年間で航空交通量は年間 4.3% の成長を続け、世界で運航される旅客機および貨物機が現在の約 23,000 機から 2 倍以上のおよそ 48,000 機に増加する見込みです。これにより、今後さらにパイロットが 550,000 人、整備士が 640,000 人必要になります。

2038 年に予測される世界の航空機数 47,680 機のうち 39,210 機が新造機で 8,470 機が現在運航されている既存機です。エアバスは、燃費効率の高い最新世代の A220 や A320neo ファミリー、A330neo、A350 などの航空機に入れ替えられることによって、世界の人々をより身近につなぎながら、航空輸送業界が促進する脱炭素化および 2020 年以降のカーボン・ニュートラルの目標に貢献できると考えています。

エアバスは進化する航空機技術を考慮し、航空機の分類を簡素化し、キャパシティ、航続距離、

運航路線の種類で分けています。たとえば、近距離の A321 は小型機 (S)、長距離の A321LR または XLR は中型機 (M) に分類されます。A330 の主要市場は中型機 (M) に属する一方で、一部は A350 XWB と共に大型機 (L) のセグメント内で運航され続ける見通しです。

この新たな分類によって、新造旅客機および貨物機が今後 39,210 機必要になることが予測されます。その需要の内訳は、小型機 (S) が 29,720 機、中型機 (M) が 5,370 機、大型機 (L) が 4,120 機です。そのうち 25,000 機が成長による需要で、14,210 機が経年機の入替需要です。

経済ショックからの回復力が高い航空交通量は 2000 年以降、2 倍以上に増加しています。航空輸送は今後も人口の集中する地域を結ぶ上で重要な役割を担います。特に、旅客機利用の傾向が高まり見せる、あるいは地理的に代替方法のない新興市場において航空輸送は大きな役割を果たしています。世界の都市人口の約 4 分の 1 が世界の GDP の 4 分の 1 以上を占め、新興市場と共に重要な成長要因であるとなると、航空大都市は今後もますます世界の航空ネットワークの発展に寄与するでしょう。燃費効率性がより高まっていることも、低い燃費効率の既存機を入れ替える需要をさらに促進します。

エアバスは小型機 (S) セグメントにおいては A220 ファミリーや A320 ファミリーが市場をリードします。中型機 (M) セグメントにおけるエアバスの主力機は A330、A330neo ファミリーで、長距離飛行用の A321LR、XLR など含まれます。大型機 (L) セグメントでは A330neo ファミリー、A350 XWB、超長距離型 A350ULR が対応します。また、A380 も引き続き対応します。



今後 20 年間で 39,210 機の新造機需要を予測

エアアジア X、A330neo を 12 機、A321XLR を 30 機発注

エアアジア・グループで長距離路線を運航するエアアジア X が A330-900 を 12 機と A321XLR を 30 機確定発注しました。

今回の購入契約によってエアアジア X が発注する A330neo の数は 78 機に増加しました。同社は同機種における世界最大の航空会社です。また、A321XLR の発注によって、同社の A320 ファミリーに対する合計発注数は 622 機になりました。

エアアジア X は現在、アジア太平洋および中東において 36 機の A330neo を運航しています。8 月には A330neo 初号機がバンコクを拠点とするタイ・エアアジア X の保有機に加わりました。

A321XLR は A321LR をさらに進化させた航空機です。航続距離とペイロードに対する市場のさらなるニーズに対応し、航空会社に高い価値をもたらします。2023 年から、A321LR より 15% 長い最大 4,700 海里の超長距離を飛行する能力を提供し、旧世代の競合機と比較して座席当たりの燃費を 30%削減します。



より長い航続距離を持つ A321XLR

クリスタル・キャビン・アワードを受賞

エアバスの「Airspace Connected Experience
(エアスペース・コネクティッド・エクスペリエンス)」

がこのほど、「ベスト・カスタマー・ジャーニー」
部門で「2019 クリスタル・キャビン・アワード」を

受賞しました。ゲートグループ、レカロ・エアクラフト・シーティング、ステリアと共に賞を獲得しました。

Airspace Connected Experience は 昨 年 の「APEX Expo」でコンセプトが発表され、乗客それぞれに応じた客室空間を実現するサービスの先駆けとなり、航空会社に新たな価値と運航効率性を提供することができます。このプラットフォームでは、相互接続したギャレーや機内食カート、シート、頭上手荷物棚、その他客室装備品などがリアルタイムでリンクします。これにより、乗客はより自身のニーズに応じた空の旅を経験することができます。エアバスは Connected Experience に関連するサービスを拡大するため、その他のサプライヤとも取り組みを行っています。

エアバスのセーレン・ショルツ キャビン&カーゴプログラム担当シニアバイスプレジデントは次のように述べています。「客室のシームレスな相互接続によって、一人一人特別な、高品質サービスを楽しみたい乗客に多大な利点を提供することが可能です」



クリスタル・キャビン・アワードを受賞したエアバス



エアバスの革新的な客室「Airspace」



空の旅の未来に向けて取り組むエアバス

コムラックスが ACJ320neo を発注



今年引き渡されたコムラックスの ACJ320neo

コムラックスが ACJ320neo を発注しました。同機に対する発注は 4 機目となります。今回の追加発注により、コムラックスのエアバス・コーポレート・ジェットに対する合計発注数は 20 機になります。

ACJ320neo は A320neo ファミリーの派生機で、新型エンジンを搭載し、燃費を削減するシャークレットを備えます。

現在、A320neo ファミリーのコーポレートジェット型に対する受注数及びコミットメントの合計は 15 機です。

ACJ319neo は 8 人を乗せて 12,500 キロ、または 15 時間以上を飛行し、ACJ320neo は 25 人を乗せて 11,100 キロまたは 13 時間以上を飛行することが可能です。

およそ 200 機のエアバス・コーポレート・ジェットが世界中で運航されており、南極大陸を含む世界の全大陸に飛行しています。

JAL の A350 就航セレモニーのハイライト



Photo: Taichi Ogawa/WPP

セレモニーでのテープカット



JAL の A350 の座席を設置したエアバスの「Airspace」モックアップが羽田空港で展示された



初便に搭乗する乗客を見送る JAL 社員たち



離陸前にタキシングする A350-900

フィジーエアウェイズの A350 XWB がロールアウト

フィジーエアウェイズの A350 XWB 初号機が、仏トゥールーズの塗装工場からロールアウトしました。同社の A350-900 はドバイ・エアロスペース・エンタープライズからのリース機です。フィジーエアウェイズは南太平洋地域の航空会社の中で A350-900 を初めて運航する航空会社になります。

同機は今後、組み立て工程の最終段階へ進み、エンジンの装備、地上および飛行試験を行い、第 4 四半期にフィジーエアウェイズに引き渡される予

定です。

同社の A350-900 はライフラットシートビジネスクラス 33 席、エコノミークラス 301 席を装備します。同社は A350 によってフィジーからオーストラリア、米国への既存の長距離サービスを強化し、また、新規路線の開拓も検討します。



フィジーエアウェイズの A350-900 初号機

2019年8月末時点の受注・引き渡し・運航機数

機 種	総受注機数	総引き渡し機数	運航機数
A220 / A318 / A319 / A320 / A321	15,300機	9,062機	8,638機
A300 / A310	816機	816機	306機
A330 / A340	2,116機	1,846機	1,680機
A350	913機	300機	300機
A380	290機	239機	237機
合計	19,435機	12,263機	11,161機